

平成30年度第2回三田市総合教育会議 議事録

会議の名称	平成30年度第2回三田市総合教育会議
開催の日時	平成30年12月20日(木) 10時00分～11時30分
開催の場所	市役所本庁舎3階302A会議室
出席した委員の氏名	森市長、鹿嶽教育長、虫明教育委員、中上教育委員、吉田教育委員、田口教育委員
出席した庶務職員の職及び氏名	赤松理事、岡崎学校教育部長、印藤地域戦略室長、外岡学校教育部次長、田中政策課長、浅野教育総務課参事、古井学校教育課長、吉田学校教育課参事、村岡学校教育課参事、上野教育総務課副課長、山谷政策課課長補佐、松田教育総務課指導主事
その他出席者	なし
傍聴者の人数	15人
議 題	・三田市立学校再編計画【第1次計画】(案)について ・三田市立学校の再編に係る協議体制(案)について
会議の概要 (結論)	学校再編計画【第1次計画】及び再編に係る協議体制について議論した。
公開・非公開の 区 分	公開
使用した資料	・三田市立学校再編計画【第1次計画】(案)について ・三田市立学校の再編に係る協議体制(案)について ・三田市立学校のあり方に関する基本方針
連 絡 先	地域戦略室 政策課 電話(079)563-1111 内線(2211)

1 開会

- ・印藤地域戦略室長の司会により開会、配付資料の確認等
- ・「三田市総合教育会議の運営等に関する規程」第4条第5項に基づき、議事進行を森市長に交代

2 議事

(1) 三田市立学校再編計画【第1次計画】(案)について

＜外岡学校教育部次長から説明＞

森市長：ただ今、学校再編計画【第1次計画】(案)の説明がありました。これからの議論についてはこの構成に従って進めます。はじめに、学校再編の意義・目的について、再確認させていただきたいと思います。私も毎年学校を訪問し、子どもたちの様子を拝見させていただいており、今年はずずかけ台小学校、去年は小野小学校を訪れました。これからの時代を考えると、集団の中で学んで欲しいと思っています。学ぶ環境を作っていくことは市の大事な仕事であり、しっかり議論したいと思っています。今回の説明いただいた案は、子どもたちの理想的な環境を作ることを目的としていますが、何か教育長からあ

りますか。

鹿嶽教育長：今回具体的な計画を示させていただきました。学校の再編統合の議論については、昨年から市民の皆様とともに「学校園のあり方審議会」において議論していただき、「三田市立学校のあり方に関する基本方針」を策定いたしました。考え方については十分議論されていると思います。これからの社会の中で子どもたちがどう生きていくか、子どもたちを育てていく学校、特に小中学校の役割が重要であると考えています。三田市は大きな学校から複式学級を含む小さな学校までありますが、どのような学びの環境を与えるのか考えた場合、私としては、一定規模の児童・生徒がいる中での学び合いが大事と考えています。これからの変化の激しい社会の中で生きていく子どもたち自身が、単に知識や技能だけで生きていくというよりも、そういうものを身に着けながら、人との関わり合いの中でどのように判断して行動していくのが大切です。そういった学びの環境を作ることが大事と考えます。私も教育長に就任してから学校をよく訪問しますが、三田の子どもたちは素直で学びの意識が高いと思っています。それが三田の子どもたちの学力に繋がっているのではないかと思います。高い学びの意識の中で、より良い環境を大人が提供していく必要があると思います。地理的な条件等があり、再編統合には大きな課題もあると思いますが、これからの三田市を担ってくれる、いわば日本を担ってくれる子どもたちが育つ環境として、市議会等で議論いただいておりますが、一定の規模を達成するため、三田でも再編統合を進めていきたいと思っています。教育委員会だけで成し遂げることはできません。三田市のまちづくりとして進めていただければという思いです。

森市長：(資料1) 2ページにあるとおり、学校再編を実施する際の留意事項について教育委員会でまとめていただきました。(1)のとおり、協議の手順としては、中学校から協議を進めるとしてありますが、この点についていかがでしょうか。

鹿嶽教育長：小中学校の再編を考える中で、「三田市立学校のあり方に関する基本方針」を策定させていただき、この夏に中学校8地域で意見交換を実施させていただきました。その際、地域の皆様は様々な考え方をされておられます。小学校に対しては皆様の思い入れがある中で、小規模な学校が多いこともあり、メリットとデメリットという議論も多々ありましたが、地域との関わりが密接であるなど、再編を進めるには課題が多いと感じました。一方、中学校は、部活動の問題や教員の数がクラス数で決まることから免許外指導の問題もあります。すべてを一気に解決するのが一番良いのですが、それは現実的にできないので、やはり一定の順序を決める必要を感じました。高等学校に繋がる中学校の様々な課題を解決するのが一番であると考え、教育委員会から中学校の再編計画を提案させていただきました。

森市長：市長という立場からすると、小学校区は地域との関わりが強く、まちづくりの根幹をなすものと思っています。これについては、地域の皆様と十分に議論して進めていきたいと考えています。中学校についても地域の影響ありますが、子どもたちのことを考えると、できる限り早く教育環境を整えて、勉強とクラブ活動ができるようにしたいと思えます。議論としては中学校を優先していくこととしてよろしいでしょうか。(異論なし)

森市長：それでは資料2ページの(2)から(5)までに課題が挙げられています。1番目に通学負担に関する事、2番目として、学校再編により教育環境が変わりますが、学校再編は教育環境を良くすることが本来の目的ですのでそれに伴う充実です。3番目に学校と地域との関係があります。4番目として、市は「三田市公共施設マネジメント推進に向けた基本方針」を公表しましたが、その中でも学校の問題は別としており、施設の跡地をどう利用するのが大事だと考えています。学校の再編後の跡地利用として、地域の皆様に利用していただくのが望ましいと思っていることから、そうしたことを総合的に考えていきたいと思えます。それでは、この4つの課題を中心に委員の皆様のご意見をいただきたいと思えます。

田口委員：中学校区の発展的統合再編には、通学への配慮が重要で高等学校へ通学する場合と同じように自転車や電車、バス等の利用形態を具体的に考える必要があります。中学生の許容通学時間を1時間程度として、新中学校区の領域は藍中学校と長坂中学校を合わせた範囲となるのですが、高等学校への通学と違って、1時間以内でいけるのかが気になります。また、相野駅や広野駅へのアクセスについても安全で安心な通学路の確保等考えないと地域の皆様の合意が得られないと思えます。

事務局（外岡次長）：長坂中学校までの距離は調査しています。藍中学校区で最も遠く篠山市との市境となる日出坂から長坂中学校まで約5キロ、つつじが丘であれば約6キロ、大川瀬は約8キロとなります。長坂中学校区で一番遠いのは上青野で約8.5キロあり、地理的には長坂中学校が概ね中央になると考えています。現状の通学手段から考えると、これ以上の範囲は子どもたちにとって難しいと考えています。

吉田委員：子どもたちの学びの活性化や充実した教育環境は、中学校から早急に対処していくことが必要だと思えますが、大きな問題でもあり市も相当の覚悟をしていただかなければならないと思えます。財政負担もあり、そのしわ寄せで貧弱な教育環境へつながってはいけないので、充実した教育環境を作ることをまずやらないといけないと思えます。特に私が心配しているのは、藍中学校と長坂中学校の統合を進めた場合に、統合した規模を維持できるのが約10年間で、その間に人口増がなければ、また再編しないといけなくなります。この基本方針で考えるとそのような見通しになっていると思えます。ただ、広野駅前地区と相野駅前地区の整備計画があり、どの程度の人々が居住されるのか、小中学生が入ってくる可能性がある整備ができるのか気になるところです。これは教育委員会だけで考えられないので、市の政策としてそれについても検討し、統合した長坂中学校ができるだけ維持できて、全体として充実した教育環境が長く維持できればいいと思えますので、そうした見通しがあるのかお聞きしたいと思えます。

事務局（田中課長）：わかる範囲でお答えいたします。広野地区・相野地区は地域振興部が中心となって、持続可能なまちづくりの進展のために整備を進めているところです。日本全体が人口減少社会を迎える中、実際の人口の伸びについては、見通しを明言することは難しく、「三田版総合戦略」における人口ビジョンを見ても人口の増加は難しい状況ではありますが、まちの活力が維持できるよう円滑な事業の進展に努めてまいりたいと思えます。

森市長：補足をさせていただきますと、財政上の問題は健全財政を維持しながら進めていくこととなりますが、他市の事例を見ていると、統合に際し校舎の改築を行う場合に差が大きく現れます。新しく設置することになると約40億円、土地を別に購入する場合はさらに約10億円が必要と試算しています。長期の課題として、財政の健全化と両立しながら、子どもたちのために良い教育環境を、地域にとっても拠点となるようにしていきたいと考えます。担当からも説明がありましたが、並行してまちづくりを進めることが大事です。三田駅、新三田駅は現在計画づくりや整備を進めています。相野駅前には土地改良が順調に進んでおり、広野駅も新たな提案がなされました。駅前を中心とした開発を進めるために、学校の再編と上手く繋げ、子どもたちにとって良い学びの環境と地域の活性化を進めたいと思います。また、「三田市地域公共交通網形成計画」を年度内にまとめます。通学バス、スクールバスによる送迎の体系も考えながら総合的にまちづくりを考えていきたいと思います。人口減少とその中でどう対応していくかを十分に把握しながら、今回の再編の目的である子どもたちの学びの環境の整備を財政の健全化を図りながら進めていきたいと思います。

田口委員：藍中学校と長坂中学校が発展的統合再編によってできる新中学校区は相野駅と広野駅という二つのJRの駅を持つこととなります。この新中学校区を中心とした地域づくりを考えていく必要があります。長坂中学校が校庭の芝生化や全天候型グラウンドを有し、充実したICT教育や少人数学習用教室を持つ最先端の中学校教育を推進するまちづくりのシンボルになればこの新中学校区の皆様にとっても誇りになるのではないのでしょうか。また、長坂中学校は、県立の高等学校からも近いところにあり、高等学校への進学を考えても良い地域なので注目されると思います。夢のある学校再編を考える場合に、長坂中学校をモデルとすることで、三田市が最先端の教育に力を入れていることが広まり、阪神間からの移住者希望も増えるのではないかと考えます。

鹿嶽教育長：よく学校再編は単なる数合わせだと言われます。基本方針に掲げている一定の規模の学校は必要ですが、統合された学校でどのような教育をするのが大事です。単に数を合わせただけでは意味がなく、三田のモデル校としてスタートする意気込みがなければ、地域の合意が得られないのではないかと考えています。改修も行いますが、そこにプラスアルファの要素を加味することで、子どもたち自身が「そういう学校へ行きたい」と思ってもらえるように進めたいと思います。特に通学については負担をかけないように、また交通事故も多いので、その対応も合わせて検討していきたいと思います。単にスクールバスを走らせるということだけでなく、地域公共交通を含めた形で教育委員会も考えていかなければならないと思っています。

中上委員：私も統合は進めていかなければならないと思っています。中学校のクラブ活動は多いところで16個、少ないところで7個と聞いています。勉強はもちろん大事ですが、子どもたちに夢を持たせるという意味でもクラブ活動を選択できるようにする必要があります。小規模校では文化部がないところもあります。学校行事の活性化もあり、子どもたちの環境を良くするためには統合していく必要があると思います。通学に関しては、子どもたちの体力は小中学校在学時に作られると思うので、徒歩又は自転車ですら安全に通学できるような環境づくりが必要だと思います。

- 虫明委員：再編は賛成ですが、校区が広がることで地域の伝統が守られるのか気になっています。三田は長い歴史があるまちであり、子どもたちにも伝えて欲しいと思います。
- 森市長：教育委員会では学校教育の一環でふるさと学習の授業を行っています。また、ニュータウン地区等でも地域の皆様が文化活動等に取り組みされており、これを機会に地域へ仕掛けていければ良いのではと考えています。明日12月22日に第1回目の「地域コミュニティ懇話会」を開催し、学校再編の動きを眺みながら、今後、三田のコミュニティをどのようにしていくのか検討を始めます。公共交通網の関係で、インフラ等の問題がありますが、学校再編を視野において折衝等も進めていきたいと思っています。それでは、資料1の1～2ページに関してはこれでよろしいでしょうか。〈異論なし〉
- 森市長：続いて具体的な再編案について議論したいと思っています。資料の3～4ページに第1次計画として、生徒数の減少が著しく、課題が多い中学校に関して「上野台中学校と八景中学校」の統合、「長坂中学校と藍中学校」の統合が示されました。まずは、「上野台中学校と八景中学校」の統合について、各委員のご意見をお聞かせいただければと思います。
- 森市長：上野台中学校は、生徒が減少するので何らかの対応が必要であると思います。地域の皆様の意見をお聞きしたいと思いますが、八景中学校は市域の南側にあり、現在の八景中学校区内で移動させたいと考えています。新築となれば約50億円かかると見込んでいますが、市民の皆様の理解が得られれば、子どもたちのために新しい環境を財政規律の中で中期的に進めていきたいと考えています。
- 中上委員：私は、上野台中学校区に住んでいます。私の住む地区では、中学校の生徒が2人おり、来年度から1人になります。中学校は通えますが、クラブ活動が選べない状況だとやりたくてもできず、こうした環境はよくないと考えます。クラブ活動を選べる環境を作ることが大人の役割と思っています。統廃合は賛成です。人が住み続けようとするなら、こうした取り組みをする必要があると思います。
- 鹿嶽教育長：再編というと、学校がなくなることへの抵抗感を持つ人がいますが、どこに住んでも子どもを育てることができるという環境づくりは必要と考えます。学校がなくなると地域が崩壊するというのではなく、一定の教育環境があるならそこに住もうという気持ちになると思います。教育委員会でも八景中学校と上野台中学校の統合について様々な議論を行っており、上野台中学校、長坂中学校、藍中学校の統合も検討しましたが、三田市北部の地理条件を考えた結果、八景中学校と上野台中学校を統合する案を作りました。八景中学校を移転したとして、その移転後の跡地を処分し、それによる新たな整備を検討していければと思います。
- 吉田委員：新しく学校が建つということはそれだけで夢があります。長坂中学校と藍中学校の統合も希望を持って進めていかなければならないと思います。
- 森市長：経費的な話をさせていただきますと、ニュータウン関係の債務償還が平成36年度に目途がつくと考えており、中期的な視点から資金を捻出して整備していきたいということと、公共施設のマネジメントの観点を加味しつつ総合的に対応していきたいと思っています。一番大事なのはまちづくりだと思います。市内には大学があり若い人がいます。賑わいを作る、まちの再生という観点から地域全体を嵩上げしていきたいと考えています。

森市長：それでは、上野台中学校と八景中学校を統合し、場所は現在の八景中学校区内で検討するとさせていただきます。また、事務局でいただいた意見を参考にしつつ、地域の皆様の意見も踏まえながら、進めていきたいと思えます。

森市長：次に、「長坂中学校と藍中学校」の統合について、各委員のご意見をお聞かせいただければと思えます。

吉田委員：先ほど説明いただいたように、まちづくりと一体となって長坂中学校と藍中学校の再編について考えられることは、千載一遇のチャンスだと思いますので、是非進めていただくと心強いと思えます。教育内容については教育委員会が頑張っていかなければならないことだと思いますので、特色ある、魅力ある教育環境を学校現場と一緒に作り上げていければと思えます。この点は、教育委員会として大きな覚悟がいて感じています。

森市長：市長としては、藍地区から中学校がなくなるということが若干気になります。ご承知のとおり、藍地区は、つつじが丘地区を中心に大きく発展していたという経過があり、しっかりとしたコミュニティが構築されている中で、中学校がなくなるということが与える影響を十分考慮しなければならない、まちづくりの中で補完できるような施策を考えていかなければならないと考えています。

鹿嶽教育長：最初に説明しましたが、藍中学校と長坂中学校を統合した場合、どこに学校を設けるかといったときに、やはり地域の中心的な場所が最適であると思えます。藍中学校では通学に対する負担が大きくなるので、その辺りは地域の皆様と十分協議を行っていきたいと考えています。一方で、藍中学校を存続させるとした場合、将来的な人口推計もありますが、つつじが丘地区という住宅特性もあり、子どもの増加は見込めません。確実に中学校1学年1学級という状況が訪れるので、クラブ活動への支障や免許外指導といった様々な課題が生じる中学校に通わせることとなります。人口推計では、統合しても人口増が見込めない状況ではありますが、これは現時点での推計であり、事務局の調査では、就学前までにある程度両校区とも子どもたちの数は増えることが見込まれます。つつじが丘地区での空き家対策や、JR駅周辺のまちづくり等も考慮すれば、一定規模が保たれる可能性もあります。

森市長：誤解のないように念のため申しあげますが、財政上の都合で新築せず、長坂中学校を改修するというものではありません。地理的・歴史的な状況を総合的に勘案したものであり、様々な意見をお聞きしながら、魅力ある学校としてどのようにすれば良いのか考えていきたいと思えます。藍地区は、JR周辺のまちづくりや地域公共交通網の体系の整備のほか、元来コミュニティ活動が盛んな地域でもありますので、例え、藍中学校が学校としての機能がなくなったとしても、跡地利用も含めて地域の皆様の様々な意見をいただきたいと思えます。

森市長：それでは、長坂中学校と藍中学校を統合し、場所は現在の長坂中学校を統合場所として検討するとさせていただきます。

森市長：以上の議論を整理すると、本日は、1つ目が上野台中学校と八景中学校を統合し、場所

は現在の八景中学校区内で検討すること、2つ目が藍中学校と長坂中学校を統合し、場所は現在の長坂中学校を統合場所として検討を進めること、以上2点を決定することとし、市において、速やかに、統合に係る諸課題を整理し、具体的な計画案等を検討させていただきます。

(2) 三田市立学校の再編に係る協議体制（案）について

＜外岡学校教育部長から説明＞

森市長：ただ今、事務局から学校再編に係る協議体制（案）の説明がありました。

学校再編については、この総合教育会議において統括させていただきますが、これを下支えする庁内横断的な組織として「(仮称) 三田市教育改革会議」の設置を提案させていただきました。そして、何よりも大事なことは、これから丁寧な説明をさせていただきますながら、地域の皆様のご理解をいただくため、「(仮称) 三田市立学校再編地域協議会」をそれぞれの対象区域に基づいて設置することを提案させていただきました。それぞれの構成や役割等の協議体制につきまして、各委員のご意見をお聞かせいただければと思います。

田口委員：会議の名称について分かりにくいと思います。役割は学校再編計画の推進に係る総合調整などを掲げている中で、「教育改革会議」というと市民の皆様には分かりづらく、はっきりと的を絞った名称の方が分かりやすいと思います。「教育改革会議」での議論が「総合教育会議」にどのような形で進捗状況等が報告されるのか、市民への情報開示をどうするのかなど分からない部分があるので、今後の運用において透明性を確保し、市民にしっかりと伝わるようお願いしたいと思います。

森市長：「教育改革会議」の名称については再考させていただきます。「教育改革会議」は、「総合教育会議」を補佐し、事務局的な機能を担う庁内組織としての位置付けですので、基本的には庁内での会議の内容については公開することを予定しておりません。ただし、公開で開催する「総合教育会議」とは常に連携を保ちます。

「地域協議会」についてはいかがでしょうか。夏に開催された説明会での状況についても教育委員会から報告を受けていますが、地域の皆様にいかに丁寧に説明しながら、また、構成員に過度の負担にならないように、動き出すまでにしっかりと調整をさせていただきますと思います。地域や保護者の皆様の声を間違いなく我々が受け止めるような体制を整えたいと考えています。

鹿嶽教育長：学校再編は、責任を持って行うことが教育行政を担当する我々の務めであると思いますが、当然我々のみで推し進めようとは全くもって思っておりません。地域の皆様の声を十分お聞きする中で、2年間という期間を設けさせていただきますが、皆様の考えがまとまらず、ご理解いただけないのであれば、強引に進めることはできない、一旦は立ち止まり、もう一度考え直すことも必要であると考えています。ただし、我々としては、今回提示させていただいた案は、それぞれの中学校区の中では、ベストな案であるという自信をもって地域の皆様にご説明したいと思っています。

中上委員：子どもたちにとって、例えば電子黒板等ICTの最先端の機器を用いた、時代に合った

優れた環境環境を整える、これにより地域の皆様の理解を得られるのではと考えます。

鹿嶽教育長：「総合教育会議」の下部組織として「教育改革会議」を設置するとのことですが、私自身、学校再編は教育委員会が大きな責任を担いますが、教育委員会だけではできないものではないと思っています。やはり、市を挙げて取り組むべきものであると思っており、こうした部分を市全体として支え、協議できる組織、体制を整えていただけるのは大きな力になります。十分に連携していきたいと考えています。

森市長：それでは、今後の協議体制に必要となる2つの組織の設置を確認いたしました。なお、「教育改革会議」については名称を再考させていただきますが、両組織の設置に向けて、準備を進めさせていただきます。今後の総合教育会議においても、適宜、「地域協議会」での協議状況等を報告させていただきたいと思います。私も、他の首長とお出合いする際に、学校再編に係る成功事例や失敗事例など様々な意見をお伺いする機会がありますが、そうしたご意見等もしっかりと受け止めながら、三田として子どもたちの教育環境とまちづくりをより良い形として進められるよう、市民の皆様にはしっかりと丁寧に説明し、理解を求めながら取り組んでまいりたいと考えています。

以上で本日の会議の議事は終了させていただきます。

3 その他

次回の総合教育会議は、今後日程調整を行うこととした。